

来! BuRaRi にほんばし

“来! BuRaRi”はライブラリの意味ですが、ぶらりと来てもらえる図書館に!との思いも込めています!
“にほんばし”の題字は、寄席文字書家の橋右女次(たちばなうめじ)さんによるものです。

日本橋図書館
館報

2023.10.31
(No.102)

(題字/橋 右女次)

発行
中央区立日本橋図書館
中央区日本橋人形町
1-1-17
(3669)6207

特集

明治座 ～都内で最も歴史ある劇場～



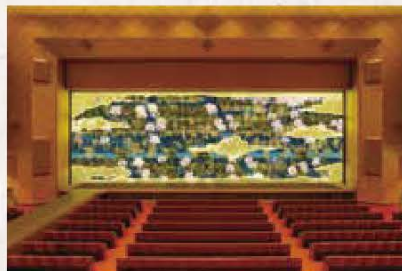
「明治座」は、明治6年(1873)に「^{きしやうざ}喜昇座」として開場したことに始まり、昭和3年(1928)に現在の日本橋浜町へと劇場を移転し、今年で創業150年を迎えました。明治初期から続く都内の劇場では、歴史が最も古い劇場となっています。今回は日本橋地域にゆかりある劇場「明治座」にスポットを当て、その歴史を紹介します。



戦前の明治座

写真：中央区立京橋図書館所蔵

《^{どんちやう}四季喜昇座 - 時を紡ぐ緞帳》



写真提供：株式会社明治座

創業145周年を記念してチームラボが制作した高精細デジタル緞帳。天候・時間や季節とともに日々変化する美術的価値のある舞台機構です。



昭和33年の明治座

写真：中央区立京橋図書館所蔵



令和5年の明治座(18階建ての浜町センタービル内)

明治座の沿革 えんかく

明治	6年 (1873)	久松町(久松町河岸*)に「喜昇座」として開場	きしょうざ 喜昇座
	12年 (1879)	劇場を大改築し、座名を「久松座」と改めて開場	ひさまつざ 久松座
	13年 (1880)	火災により焼失	
	18年 (1885)	劇場を改築し、座名を「千歳座」と改めて開場	ちとせざ 千歳座
	23年 (1890)	火災により焼失	
	26年 (1893)	西洋風の劇場に新築し、座名を「明治座」と改めて開場	めいじざ 明治座
大正	12年 (1923)	関東大震災により焼失	
昭和	3年 (1928)	浜町に場所を移して劇場を新築・開場	
	20年 (1945)	東京大空襲により焼失	
	25年 (1950)	劇場を再建・開場	
	32年 (1957)	火災により劇場焼失(翌33年に再開場)	
平成	2年 (1990)	建て替えのため閉場	
	5年 (1993)	18階建ての浜町センタービル内に明治座が開場	
令和	5年 (2023)	明治座創業150年	

*「明治座ものがたり 平成十六年～平成二十五年編」より

参考文献 -京橋図書館蔵-

◆木村錦花「明治座物語」(歌舞伎出版部、1928年) ◆電通編「平成の明治座—平成五年落成—」(明治座、1993年) ◆藤田洋「明治座評判記」(明治座、1988年) ◆藤田洋「続・明治座評判記」(明治座、2006年)

中央区立郷土資料館作成「明治座の沿革」を一部改変

明治6年(1873)
▼
喜昇座

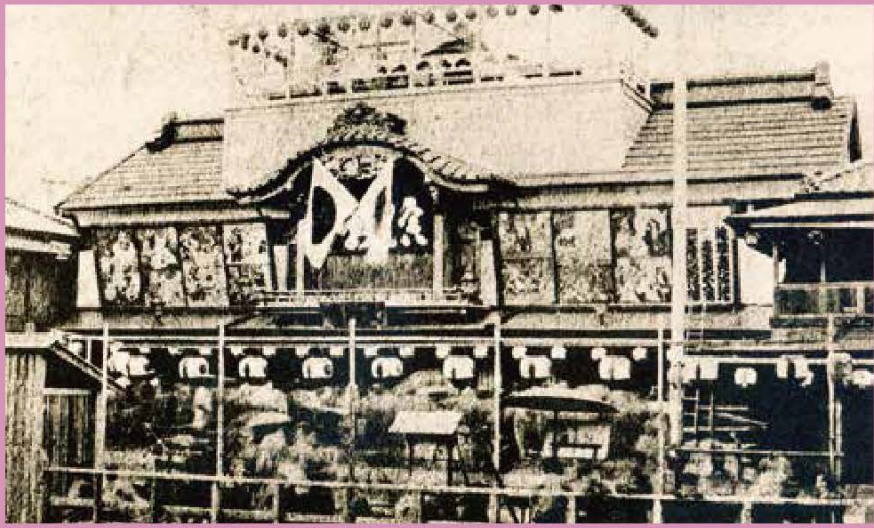


写真：中央区立京橋図書館所蔵

明治5年(1872)の東京府令で認められた劇場「喜昇座」として開場しました。創建当初は、現在の久松警察署の南側のあたり(旧浜町川の河岸地沿いの場所)に建てられました。

明治12年(1879)▼

久松座



写真：中央区立京橋図書館所蔵

明治12年(1879)には座名を「久松座」と改め、京橋区新富町(当時)にあった近代的な劇場「新富座」にならって大歌舞伎ができる大劇場を目指して改築しました。しかし、改築翌年には火災により焼失しました。

明治18年(1885)▼

千歳座



「東京劇場千歳座之景」 写真：中央区立京橋図書館所蔵

明治18年(1885)に再築し、座名を「千歳座」と改めて開場しました。河竹黙阿弥かわたけもくあみの代表作『水天宮利生深川』が初演でした。5年後の明治23年(1890)に焼失の憂き目に遭いました。

明治26年(1893)▼

明治座



写真：中央区立京橋図書館所蔵

明治26年(1893)に初代市川左團次いちかわさだじが私財を投じて再建し、座名を「明治座」と改めました。大正元年(1912)に新派俳優の伊井蓉峰いゐようほうが座主となり、同6年(1917)には松竹合名会社の直営館となりました。大正12年(1923)の関東大震災で焼失した後、昭和3年(1928)に現在の日本橋浜町において新劇場が新築・開場しました。

明治座を支えた人々

座主としての改革・初代市川左團次 ~チケット販売~

大坂で鬘かつらを扱う床山とこやまの二男として生まれ、慶応元年（1865）から「中村座」（幕府公認の江戸三座の一つ）に出演していました。一時は舞台から離れましたが、河竹黙阿弥かわたけもくあみの後援により再び舞台を務めると、人気役者となって明治の九代目市川團十郎・五代目尾上菊五郎と肩を並べるようになりました。

明治26年（1893）に「千歳座」が「明治座」と改名した時の最初の座主として活躍します。運営改革にも熱心で、新たに切符売場の設置や電話予約の受付、座席番号付の切符の販売などを始めました。



写真提供：株式会社明治座
創業150周年記念事業として製作された復刻版のチケット封筒。
昭和20年代から昭和40年代まで使用していたデザインを復刻したチケット封筒が製作されました。

新派出身の座主・伊井蓉峰 ~歌舞伎以外にも広がっていく演目~

写真師の子として日本橋で生まれ、銀行勤務を経て川上音二郎一座に入りました。その後、日本橋区中洲町（当時）の「真砂座」では伊井による近松研究の新演出が話題となりました。

「真砂座」では、近松物・円朝物やシェークスピアなどの文芸物を上演し、「新富座」や「明治座」の大劇場に進出しました。大正元年（1912）には、二代目左團次から明治座の座主を受け継ぎ、新派（従来の歌舞伎とは異なる明治期の新たな現代劇）を中心に喜劇や映画の興行などを行ないました。

東京大空襲後の復興・新田新作 ~株式会社明治座の誕生~

昭和20年（1945）の東京大空襲で被災した「明治座」を再建したのが、新田建設の社長で力道山の後援者としても知られる新田新作です。

新田と地元の有志を中心に「明治座復旧期成会」が結成され、昭和25年（1950）に松竹から所有権を譲り受け、新田が社長となって株式会社「明治座」が設立されました。

現在も明治座前に祭られている「明治観音堂」（東京大空襲の被害者を慰霊する観音堂）の発願主でもあります。



明治観音堂

❖ 初代左團次の大入袋

明治29年（1896）9月、市川團十郎が出演した興行は25日間大入り満員でした。当時は大入り満員の際、楽屋に蕎麦を出す風習がありましたが、左團次は蕎麦をふるまう代わりに蕎麦札を大入袋に入れて配りました。これが今日の「大入袋」の始まりとされています。

❖ 川上音二郎登場

明治36年（1903）、川上音二郎一座が明治座に初登場し、日本で初めての正劇『オセロ』（シェークスピア原作）を上演しました。

❖ 大当たり! 明治一代女

昭和10年（1935）、花柳界もので芸者による殺人事件を題材とした『明治一代女』が大当たりし、明治座人気に沸きました。この物語の舞台は霞町（現在の日本橋区人形町）の花柳界でした。

❖ 力道山たちの消火活動

昭和32年（1957）明治座は出火し全焼しました。その際、力道山や東富士らプロレスラーたちが必死の消火活動を行ない、周辺地域への延焼を防ぐことが出来たとされています。



150年の歴史の中では、いろいろなことがありました。

日本橋地域の芝居小屋 –江戸三座と明治の劇場–

江戸時代、江戸三座と呼ばれた幕府公認の芝居小屋の市村座・中村座・森田座がありました。これらの芝居小屋は、いずれも現在の中央区内で興行を行っていた時期がありました。このうち、市村座は葺屋町（現在の日本橋人形町三丁目）、中村座は堺町（現在の日本橋人形町三丁目）にあり、森田座は木挽町五丁目（現在の銀座六丁目）で櫓を建てていました。

幕府によって興行場所と興行権が限定されていた江戸三座ですが、天保13年（1842）から行なわれた天保の改革によって、三座ともに浅草猿若町へと移転が命じられることになりました。

明治時代になると、東京府令によってこれまでの江戸三座の制度が改定され、三座以外の劇場も認められるようになりました。日本橋地域には、明治期に「喜昇座」（その後「久松座」「千歳座」と座名を改めて最終的に「明治座」となる）や「中島座」「真砂座」などの芝居劇場が次々と開場しました。



「東都名所二丁町芝居繁栄之図」

中央区立郷土資料館所蔵

中島座

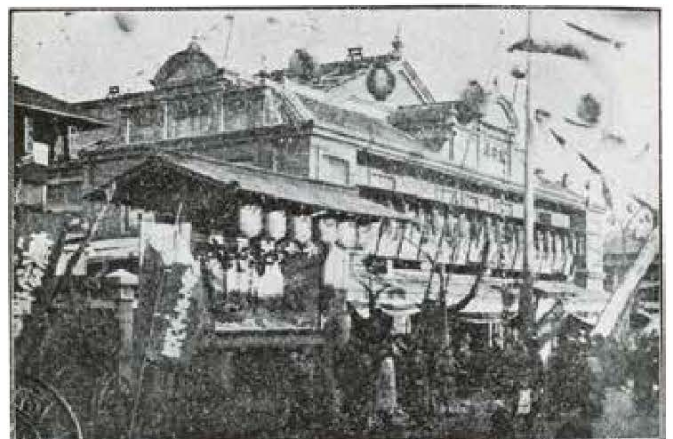
旅回りの役者であった中島勘九郎が、西両国の地で芝居の興行を始めたと言われ、明治6年（1873）に日本橋区のかきがらちょうに開場しました。大劇場に比べ安価で人気がありましたが、明治20年（1887）の火災で焼失し、その後は再建されることなく廃座となりました。

真砂座

明治26年（1893）に日本橋区中洲町（現在の日本橋中洲）で開場しました。

新派俳優の伊井蓉峰が中心となって近松物と呼ばれる心中物の演目（江戸時代の人形浄瑠璃・歌舞伎作者である近松門左衛門の研究劇）や翻訳劇などを盛んに上演して新演劇の向上を図りました。

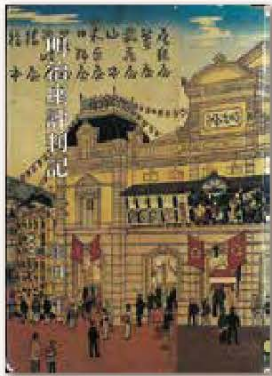
一時は女優劇なども結成されて隆盛をみた真砂座でしたが、大正6年（1917）座主の債務関係によって廃座となりました。



真砂座 写真：中央区立京橋図書館所蔵

おすすめの本

日本橋図書館に
所蔵しています。



『明治座評判記 [正]』

藤田洋／著
明治座／出版
1988年／出版年

昭和63年（1988）、明治座再開場30周年記念の際に出版されました。劇場の成り立ちから再開場に至るまで、明治座の歴史や公演についての記録が詰まった読みごたえのある一冊です。



『明治座所蔵 近代日本画名作と 傑作芝居絵展』

笠間日動美術館／編集
笠間日動美術館／出版
1991年／出版年

明治座は演劇のみならず、劇場ロビーを飾る美術にも魅力があります。日本画壇を代表する作家たちの日本画や、芝居絵の第一人者である八代目鳥居清忠^{とりいきよただ}の作品など、平成2年（1990）6月の閉場まで明治座を彩った作品を集めた企画展の画集です。



『明治座界限、 金座のヒストリー [正]』

大野雅久／著
薬事日報社／出版
2013年／出版年

日本橋浜町に移築されてからの明治座を中心に、明治座を取り巻く地域の歴史やエピソードが綴られています。続編『明治座界限、金座のヒストリー — 地元ゆかりの役者たち一統』（2019年）では、地域ゆかりの「人」に焦点を当てた事柄がまとめられています。



『日本橋』

泉鏡花／作
岩波書店／出版
2023年／出版年

日本橋を舞台にした、4人の男女による恋の物語。小説家泉鏡花^{いずみきょうか}が書き下ろした名作です。明治座では、この物語を原作とした演目が昭和13年（1938）3月に新派によって上演され、その後も繰り返し公演の題材になっています。

<参考文献>

- 『明治座評判記 [正]』 藤田洋／著 明治座 1988年
- 『日本橋学研究 第3巻1号』 日本橋学館日本橋学研究所編集委員会／編 2010年
- 『演劇百科大事典』 早稲田大学演劇博物館／編 平凡社 1960年
- 『最新歌舞伎大事典』 富澤慶秀・藤田洋／監修 柏書房 2012年
- 『東京の小芝居』 阿部優蔵／著 演劇出版社 1970年

<参考URL>

- 『明治座 公式サイト』 <https://www.meijiza.co.jp/> (参照2023-10-13)
- 『歌舞伎公演データベース』 <https://kabukidb.net/> (参照2023-10-13)

日本橋地区の寺・神社 其の十七

さんこういなりじんじゃ
三光稲荷神社

中央区日本橋堀留町二丁目1番13号

三光稲荷神社は、三光稲荷大神と田所稲荷大明神を御祭神とする神社です。稲荷大明神は倉稲魂神(ウカノミタマノカミ)の尊称で、倉稲魂神は食物の神とされています。

歴史・由来

江戸時代、歌舞伎劇場の江戸三座のひとつである中村座に出演していた大坂の歌舞伎役者・関三十郎せきさんじゅうろう(二代目)が伏見から勧請したとも伝わる神社で、かつては“三十郎稲荷”と称されていました。三十郎が中村座で演技中、場内に霊光のような光が閃き、あたかも三十郎が放光したように見えたため、観客から喝采を浴びて大評判になったと伝えられています。三十郎はこれを神のご加護によるものとし、自分の三と光の二字をもって三光稲荷と称したことから社名も改まったとされています。

古くから女性や子ども、芸伎などが多く参拝し、とりわけ猫に関する願い事に御利益があるといわれました。このため、鼠除ねずみよけの守札なども出していたようで、いまだに猫を見失ったときに祈願に訪れる人もいます。

大正12年(1923)の関東大震災では社殿が焼失し、翌年再建されました。震災後の区画整理に伴って旧長谷川町と旧田所町が合併して日本橋堀留町二丁目となった際に、田所稲荷大明神も三光稲荷神社に奉祀されることとなりました。

昭和20年(1945)の戦災では焼失をまぬがれ、現在も地域の人々によって大切に守られています。



<歌舞伎役者・関三十郎(二代目)>

二代目関三十郎は天明6年(1786)に大坂で生まれました。文化5年(1808)3月に江戸中村座へ下って技能を認められ、同14年に大立者となります。和実系の役に秀でた三十郎は「名人関三」と呼ばれ活躍しました。長唄の舞踊『関三奴せきさんやっこ』の初演でも知られていて、当り役には「菅原」の源蔵、「忠臣蔵」の平右衛門、「曾我」の鬼王などがあります。

<参考文献>

『中央区内神社調査書』 中央区史編纂室／編 1956年

『演劇百科大事典 第3巻』 早稲田大学演劇博物館／編 平凡社 1960年

『日本橋・京橋地区(現東京都中央区)に所在する全神社の由来に関する実地調査』 第一住宅建設協会／編 1987年

『日本の神様読み解き事典』 川口謙二／編著 柏書房 1999年

『三光稲荷神社 御由来』 三光稲荷神社 2006年

『最新歌舞伎大事典』 富澤慶秀・藤田洋／監修 柏書房 2012年

図書館からのお知らせ

日本橋図書館のポスターや案内表示に使われている、青いふくろうをご存じでしょうか。今までこのふくろうには名前がありませんでしたが、8月1日から9月20日まで、4つの候補から選ぶ名前投票を実施しました。投票総数は1229票にものぼりました。たくさんの方にご参加頂きまして、ありがとうございました。日本橋図書館に「にほたん」を探しにきて下さいね。

日本橋図書館ふくろうキャラクター 名前投票 結果発表

投票総数
1229票!

◎今後ともどうぞよろしくお願ひいたします◎

命名

にほたん



得票数

名前候補	得票数
福郎之助	354
ほんじろう	373
 にほたん	391
にほどん	111

館内投票とGoogleClassroomから
投票をしていただきました。
ご協力ありがとうございました。



編集後記

日本橋図書館の最寄り駅である人形町駅を利用すると、明治座の魅力的なポスターが目に入ります。日本橋浜町の顔である明治座が今年創業150周年を迎え、特集として紹介できることを嬉しく思います。写真提供等ご協力を頂いた株式会社明治座様には、心より感謝申し上げます。